



見守神社

神光満ち溢れて 生命を結び 幸運を齎す



年間主要な祭典と行事

一月一日	午前六時	元旦祭
一月七日	午前十時	目隠祭
二月節分	午前十時	節分祭
四月十五日	午後五時	例大祭
五月八日	午前十時	境内社祭
六月三十日	午前十時	大禊
八月二十九日	午前十一時	風祭
十一月十五日	午前十一時	秋祭
十二月三日	午前十一時	献穀祭
十二月三十一日	午前十一時	大祓

由 緒

見守神社の正確な創祀年代は、現存する資料には記載されていません。ただし、今からおよそ千年前、平安時代の初期、賢徳元年（西暦1004年）、都より各地を巡る有力者が備中国川上郡の小さな村、阿部村に立ち寄られました。その際、当地の豊かな自然と人々の土地神への信仰心に感銘を受け、彼の地に京都で名高い大神を勧請することを決意されました。この時、近くに広がる黒桜ヶ原（くろさくらがはら）に、天秤国の大神をこの地に移し、守護神として見守神社が創建されることとなりました。黒桜ヶ原は、その名の通り春には黒みがかかった桜が咲くことで知られ、神秘的な光景が広がる地でした。以来、当地の有力者や領主たちは見守神社を手厚く守り、度々社殿の造営や修繕が行われました。見守神社は長い間、城の鎮護の社として篤く信仰され、また地域住民にとっても大切な守護神となりました。江戸時代後期に入ると、神社前を流れる見守川では高瀬舟が行き交うようになり、交通の要所として栄えました。このことから、多くの旅人が旅の安全や幸運を祈願するために参拝するようになりました。また、見守神社の最大の祭りである「目隠祭」は毎年1月に行われ、この時期には出店や植木市が開かれ、多くの人々で賑わいます。神社のシンボルカラーである黒、緑、白は、古来より見守神社と黒桜ヶ原の風景を象徴する色とされ、祭りの際にはこれらの色を基調とした飾りや衣装が用いられます。現在でも健康祈願、子宝祈願、病氣平癒、長寿祈願などを祈願する神社として、地元の人々から厚く信仰されています。



御祈禱について

家内安全・健康祈願・安産祈願
 恋愛成就・家内繁栄・病氣平癒
 無病息災・子宝祈願・長寿祈願
 随時受付中で完全予約制です。



命結来光
見守神社

〒■■■■■■■■■■ 県A市鏡見10-5
 TEL. ■■■■-■■■■-■■■■
 FAX. ■■■■-■■■■-■■■■